

1950年代



村井正誠《天使とトピア》1950年頃 油彩、キャンヴァス

美術における「構成」とは、作品を要素で見る考え方ともいえるでしょう。要素と要素、部分と部分を繋ぎ合わせ、それらの関係性を組み立てるといった手法や発想が、戦後の絵画や彫刻における抽象的な表現を加速させていきました。その影響は戦前の西洋から日本に流入し、一部の画家や彫刻家たちに受け入れられていき、それが戦後に至って日本においてもわかに隆盛を極めることになりました。



山口勝弘《光のオブジェ Y》1970年 鉄、蛍光灯

1970年代

1970年に第10回日本国際美術展、通称「東京ビエンナーレ：人間と物質」展（東京都美術館）と大阪万博が開催されました。60年代から70年代にかけて、欧米でもライト・アート、キネティック・アート、ミニマル・アート、プライマリー・ストラクチャーズ、コンセプチュアル・アート、あるいはシュポール／シュルファス、アルテ・ポーヴェラなどの動向が生まれ、それぞれ個々の作家たちの営為のなかで静かな深まりを見せます。

1990年代

現代の美術家たちは、二次元と三次元、あるいは過去と現在の間を、いつも振り子のように、繰り返し、揺れ戻しのなかで試行錯誤しながら、行きつ戻りつしながらも、着実に新たな何かをつかみ取っていきます。



早川重章《放浪者》1998年 木、鉄、綿布

開館60周年 現代美術の展開

ザ・ベスト・コレクション

The Best Collection: Contemporary Art

このたび神奈川県立近代美術館 葉山では「開館60周年 現代美術の展開—ザ・ベスト・コレクション」を開催いたします。

第二次世界大戦が終わってから65年余を経た今日、日本国内の現代美術は、さまざまな展開を見せながら、新たな歴史を築きあげてきました。それ以前の絵画や彫刻の流れを受け継ぎながらも、既存の美術にあきたらず、新しい自らの芸術を探求しつづけてきた画家や彫刻家たち。戦後から現在までの美術の流れを概観し、そしてひとつひとつの作品をじっくりと見ていくと、そこからはさまざまな事柄が浮かび出し、多様な思考や感覚の世界が広がっています。

本展は当館所蔵のコレクションの中から、1950年代以降に制作された現代美術の展開を辿り、約40名の作家、約90点の作品で構成いたします。斎藤義重、吉原治良、村井正誠、川端実らの戦後に制作され

た作品から、高松次郎、中西夏之、若林奮、そして近年当館で展覧会を開催した松本陽子、早川重章、西雅秋、湯原和夫、さらに現在その活躍が注目されている石川順恵、伊庭靖子、伊藤存などの中堅、若手の作家に至るまで、現代の絵画や彫刻の多彩な様相と共鳴を感じ取っていただける展覧会です。また第3展示室では、アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン（1952- ）の作品を「全地 Alle Erde」というテーマで特別展示いたします。

本展は、鎌倉館で4月9日から10月10日まで開催中の「開館60周年 近代の洋画—ザ・ベスト・コレクション」と同じく、当館の開館60周年を記念して開催いたします。葉山館と鎌倉館、併せてご堪能いただければ幸いです。

1960年代



村岡三郎《タラップ(いろはにほ〜)》1967年 アッサンブラージュ

60年代の美術界は全般に反逆的な空気を漲らせ、絵画も彫刻もともに、思いもよらぬ新たな素材を次々と導入し、常識や既存の方法論を解体しようとする表現が大きく台頭しました。



中西夏之《弓形・弓ぬき》1980年 油彩、キャンヴァス、弓(寄託)

1980年代

80年代の美術は、さらなる多様化の一途を辿り、固体としての彫刻から、それを取り巻く空間や環境をも意識した作品へ、はたまた行為として、概念としての作品や、音楽や映像を取り込んだ複合的な作品、さらにはメディア・アートやヴァーチャル・アートなど、めぐるめく変化を遂げ続けました。絵画や彫刻の表現においても、独自の造形思考による、それまでにない実験が試みられていきます。

2000年～

2000年以降に台頭してきた美術家たちの作品には、従来の作品概念で規定しようとすると、するりと抜け出してしまうような斬新さと自由奔放さがあります。21世紀の若き美術家たちは、軽妙洒脱な発想と縦横無尽の豊かなイメージ力により、独自の作品世界、図像が生成され続けるような新たな時空を展開しています。



伊藤存《フィーディング サークル》2010年 布に刺繍、パネル

出品作家：佐藤哲三、川口軌外、山口薫、荒井龍男、宇治山哲平、牛島憲之、鶴岡政男、村井正誠、吉原治良、斎藤義重、佐野繁次郎、村岡三郎、山口長男、川端実、若林奮、湯原和夫、西雅秋、北代省三、大辻清司、山口勝弘、山本直彰、吉川陽一郎、山本正道、児玉靖枝、石川順恵、松本陽子、高松次郎、中西夏之、李禹煥、坂倉新平、早川重章、さかぎよしお、伊庭靖子、多和圭三、高橋信行、保坂毅、伊藤存、畠山直哉

*出品作品は変更される場合があります。



アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン(彫刻)1982年 土 (手前作品)

アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン 全地

Abraham David Christian Alle Erde

第3展示室では、アブラハム・デイヴィッド・クリスチャン(1952-)の作品を「全地 Alle Erde」というテーマで特別展示いたします。ニューヨーク、デュッセルドルフ、そして葉山のアトリエを制作拠点とするクリスチャンは、世界各地を移動しながら、さまざまな大陸の宗教や自然に関する思索から導き出したフォルムを彫刻や素描で表現し、1970年代からドクメンタをはじめとする国際的な現代美術の場で高く評価されてきました。このたび当館に収蔵された作品を中心に、その創作の一端を彫刻と素描約10点で紹介いたします。

関連プログラム

◆学芸員によるギャラリー・トーク

日時：7月29日(金)、8月5日(金) 各回 午後2時—午後3時
申込不要、無料(ただし「現代美術の展開」展の観覧券が必要です)

◆先生のための特別鑑賞の時間

日時：8月13日(土) 午前10時—午後12時
対象：小・中・高・特別支援学校の教員・職員
要申込。詳しくはホームページをご覧ください。

◆ワークショップ「あさっての美術館」

日時：8月7日(日)、9月4日(日)、10月2日(日) (いずれも「ファミリー・コミュニケーションの日」)
各回午前10時—午後12時
対象：5才以上の子どもと保護者のペア
定員：10組
要申込。無料(ただし大人の方は観覧券が必要です)
詳しくはホームページをご覧ください。

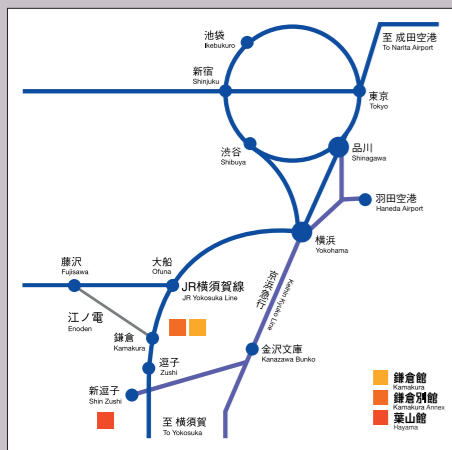
内容：「美術館ってどんなところ？」「どうやって絵をみたらいいの？」という大人と子どものための時間です。美術館キット「Museum Box 宝箱」を使ったワークショップや、学芸員と観覧会をみるギャラリーツアーを開催いたします。

◆県立機関活用講座「現代音楽の展開：1951—2011」

第1回：8月6日(土) 「実験工房と音楽」 講師：湯浅譲二(作曲家)
第2回：8月20日(土) 「フルクサスと音楽(仮)」 講師：一柳慧(作曲家/ピアニスト)
第3回：9月3日(土) 「サウンドによるパフォーマンスとは？」
講師：鈴木昭男(サウンド・アーティスト)
第4回：9月17日(土) 「啓かれた耳 伝統と現代」 講師：佐藤聡明(作曲家)
第5回：10月1日(土) 「メディアアートと音楽の新たな地平」 講師：佐近田展康
(音楽家/メディアアーティスト/メディア論研究者)
各回 午後3時—午後5時 ※講演内容は変更される場合があります。

定員：各回70名。要申込。受講料：各回1,000円。詳しくはホームページをご覧ください。

内容：「現代美術の展開」展の開催に合わせ、1950年代から現在までの「現代音楽の展開」をテーマに、第一線で活躍する音楽家たちを招いて、それぞれの体験をもとに、音(サウンド)による現代芸術の可能性について語りつないていただく試みです。



神奈川県立近代美術館 葉山 The Museum of Modern Art, Hayama

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
2208-1 Isshiki, Hayama, 240-0111 Kanagawa
tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968
http://www.moma.pref.kanagawa.jp

開館60周年 現代美術の展開 ザ・ベスト・コレクション The Best Collection: Contemporary Art



若林喬(中に大・飛び方)1967年 鉄

2011年7月23日(土)—10月2日(日)

●開館時間/午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで) ●休館日/月曜日(9月19日は開館)
●観覧料/一般 700円(600円)、20歳未満と学生 550円(450円)、65歳以上 350円、高校生 100円
*中学生以下および障害者手帳をお持ちの方は無料 *()内は20名以上の団体料金

神奈川県立近代美術館 葉山 The Museum of Modern Art, Hayama

主催/神奈川県立近代美術館

同時開催 神奈川県立近代美術館 鎌倉 tel.0467-22-5000
「開館60周年 近代の洋画—ザ・ベスト・コレクション」
4月9日(土)—10月10日(月・祝)

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館 tel.0467-22-7718
「二見影—版画展」
6月18日(土)—10月10日(月・祝)

●ファミリー・コミュニケーションの日:毎月第1日曜日(今回は8月7日、9月4日、10月2日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

